

2.20 ファンドマネージャーに必要なこと

説明力の高いファンドマネージャーの評価は高い

ファンドを運用するファンドマネージャーに必要な資質は、合理的な論理能力とそれを支える国語力、さらには、意思決定したことを投資家に適切に伝える情報伝達能力といえるでしょう。ファンドマネージャーに求められている資質は、得意な能力ではなく、優秀なビジネスパーソンとしての能力といえるでしょう。

2.20.1 ファンドマネージャーのイメージと誤解

数年前に、ファンドマネージャーといわれる人たちに会って、「ファンドマネージャーにとって最も大切なことは何ですか？」と聞いたことがあります。独立系のファンドマネージャーから、外資系の運用会社の CIO (チーフ・インベストメント・オフィサー) まで。そして、彼らの回答の収束点は、一番大切な資質は「国語力」ということでした。ファンドマネージャーといわれる人たちの仕事は、意外に知られていません。難しい数式を解いているイメージ、電話で売買を行っているイメージなどがあるかもしれませんが、これらのイメージは適切ではありません。

確かに、難しい数式を解くことや、数値計算が求められる部門もあります。ただし、そういった仕事はファンドマネージャーの一般的な仕事ではありません。つまり、ファンドマネージャーの仕事に数学の知識や能力が、必ずしも必要ということではありません。

英語はとても大切な能力かもしれません。特に、外資系の運用会社ではコミュニケーションの中心は英語ですから、英語ができないと情報を入手できないということになります。社内の情報だけでなく、社外の情報もほとんどが英語で配信されますから、英語はとても大切です。

2.20.2 英語より国語

日本のファンドマネージャーにとってさらに大切なのは、国語です。なぜなら、投資家の大半は日本語を母国語とする人たちであり、投資家に対する説明責任は日本語で行う必要があるからです。日本語で正確な文章を書くことができ、日本語を使って運用の成果を正確に伝えることができる能力が一番大切ということです。

つまり、資産運用に関する意思決定を合理的に行うことができ、そして、それを正確に伝えることができるというのがファンドマネージャーの必須条件なのです。

もともと、「資産運用に関する意思決定を合理的に行うことができる」と、「自分の行った意思決定を正確に伝えることができる」ということは不可分の関係にあると思います。とすれば、「自分の行った意思決定を正確に伝えることができる」ファンドマネージャーは、「資産運用に関する意思決定を合理的に行うことができる」ファンドマネージャーであるということになりますね。

図 2.18 ファンドマネージャーに求められる能力

